

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービスらじびあ		
○保護者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	25世帯	(回答者数) 20世帯
○従業者評価実施期間	令和8年2月3日		～ 令和8年2月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・様々な専門性や職歴のある職員が支援をしており、職員各々、自分の専門分野はありながら、他の専門分野についても学び、支援に生かしていきたいという熱意がある。	・職員全員がミーティング開催の提案やミーティングの中で地位、職歴、専門に関わらず同列で意見を交わすことができる環境を作っている。多様な視点から事業所運営についてチームで考え、決定している。	・より働きやすい職場環境を作り、20代、30代の職員のワークライフバランスやライフステージの変化にも事業所全体で対応したいと思っている。社会的に問題になっている福祉業界の離職について、らじびあではより良く人材育成をし、福祉業界の職離れを防ぎたい。
2	・支援や業務に関する悩みについて、児発管や職員間で気軽にオープンにでき、職員間で共有してチームで問題解決をすることができている。問題解決のためのPDCAのスピードが早い。	・定期的に職員に対して個別面談を実施している。 ・日々の業務や支援の中で担当業務の進捗状況や困りごとについて児童発達管理責任者の方から細目に声掛けをして相談しやすい雰囲気作りをしている。 ・業務や支援に関する事だけではなく、雑談をする中で各職員の生活や健康状態について把握できるようコミュニケーションを図っている。	・業務量、所要時間、労力、難易度等の視点から個々のスタッフに合わせた業務分担をしていくと共に、昨年度よりも対応できる業務の幅を広げ、経験を積めるようにする。
3	・新しいプログラムや活動への挑戦や事業所運営に関する決まりの変更等に対してスタッフ全員が迅速に前向きに主体性をもって取り組むことができる。	・職員ミーティングをして様々な専門的視点を取り入れながらプログラム作成をしている。 ・複数回繰り返し行っているプログラムでも全体や個別の目的や到達点を変えて設定したプログラムの立案をし、個々の特性、発達段階、性格等に柔軟に対応したプログラム構成や支援をしている。	・職員が各々学びや経験で得た知識や技術を職員間で共有する場をもっと増やす。 ・これからも職員一人ひとりが支援や業務に対して自己効力感を感じられるような業務分担や職員指導をする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・法定基準に即した支援環境ではあるが、成長(身体の大きさ)やプログラムによっては少し手狭に感じることがある。	・もう少し広い事業所に移転をしたいが、条件に適している物件が現状見つからない。	・限られたスペースの中で子どもたちの特性に合わせながら活動形態等工夫しているが、職員全体で考えてより工夫して環境を上手く使う。 ・地域の外部資源を利用頻度を多くしてより活動の幅を広げる。
2	・収納スペースが少ないので、備品や支援に必要な物の整理が難しいと感じることがある。	・もう少し広い事業所に移転をしたいが、条件に適している物件が現状見つからない。	・同法人内の他事業所で空きスペースがある場合には、備品の保管管理に協力してもらおう。
3	・送迎サービスを利用する保護者の方が多く、13:30～15:30は送迎サービスにスタッフの人員が割かれてしまうことがある。	・送迎に対応している範囲が広い。 ・送迎サービスを承っている数が多い。	・送迎サービスについては事業所の近隣の学校や自宅に限定する。 ・無理のない送迎サービスの稼働状況にする。